

令和5年度 学校評価書 (計画段階)

福岡県立玄界高等学校

自己評価				学校関係者評価			
学校運営計画(4月)			評価(総合)	評価(総合)	評価(総合)		
学校運営方針		創学の精神及び校訓に則り、日本の歴史と伝統を尊重し、他国を敬愛する国際感覚をもち、地域、国家及び国際社会に貢献するたくましい人間を育成する。		評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	生徒の多様性に応じた教育活動を通じて希望進路実現を目指す。また、国際理解教育を通じて自他を尊重できる人材を育成する。				
1 生徒の学習指導の充実を目指して、令和4年度から導入した観点別評価を検証し、教育課程、教務規定等を含めて見直しを行う。 2 一人一台端末の利活用を通じて、主体的で協働的な学びや探究的な学びを軸とした授業の改善を図る。 3 生徒個々人の状況に応じて、基礎学力の定着や学び直し、発展的な学習等を推進するため、学習支援教材を導入する。 4 生徒・家庭・社会の状況や変化に応じた生徒指導の在り方について職員研修を設定し、生徒理解を深め、効果的な生徒指導を充実させる。 5 道徳的実践「十則」について丁寧に説明し、理解を深めさせた上で、集団生活におけるルールやマナーの向上や日々の清掃活動の改善を図る。 6 令和4年度に全国大会出場を果たしたポッケー部、フェンシング部、邦楽部を軸に、部活動加入率を上げ、部活動生を中心とした規律ある校風の構築とリーダーシップの育成を図る。 7 将来の進路目標へ向けて努力する意欲の向上を目指し、総合的な探究の時間を活用して、自己の能力や適性、学ぶことや働くことの意義に気付かせる。 8 本校の特色である国際理解教育を充実させるため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で制限されてきた短期・中期・長期の海外研修や海外修学旅行の再開を目指す。また、国際文化コースの行事を一般クラスにも広げ、本校の国際理解教育をより充実させる。 9 創立40周年に向け、PTA・同窓会と密接に連携する。		年度重点目標	具体的目標				
		学習意欲の喚起及び基礎学力の定着のための授業改善の推進	ICTを活用した主体的で協働的な学びや探究的な学びを軸とする授業への転換 ・学習意欲の向上のための観点別評価の実施				
		生徒の多様性を踏まえた生徒指導のための組織的・協働的な指導と教育相談の充実	出席率や自己管理能力の向上のための職員間での情報共有や組織的な指導及び保護者との連携の強化 ・生徒の心身ともに健康な学校生活を支援するためのSCやSSW等の専門家との連携の強化				
		自己の能力・適性、社会の状況に応じた将来の進路選択と進路実現のための進路指導	3年間を見通した計画的な進路指導 ・総合的な探究の時間を活用した自己の能力・適性の理解、進路実現へ向けた意欲の向上				
		自他を尊重できる人材育成のための道徳的実践力の育成	「十則」の実践をとおして自己や他者を尊重する精神や公德心の育成				
		自己肯定感や達成感を得ることができる教育活動の充実	生徒が個の多様性を理解し、相互に認め合うことのできるホームルーム活動を中心としたクラス運営の充実 ・生徒が主体となって学校行事や部活動を行う校風の構築				
		本校の魅力や情報を効果的に伝え、入学志願者増加に寄与する広報活動の充実	中学生体験入学、部活動見学日に加え、オンラインでの広報機会の拡充 ・中学校教員や塾講師に対する学校情報の丁寧な伝達				
		家庭・地域社会との連携強化と信頼関係の維持増進	保護者面談や家庭への一斉メール送信による生徒情報や学校情報の共有及び連携の強化 ・PTA・同窓会活動の活性化のための学校行事や教育活動に関する情報交換の強化				
評価項目	具体的目標		具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	教務課	学習に取り組むための環境を整備する。	「十則」の趣旨を踏まえ、「瞑想」や挨拶をきちんと行うなど、授業規律確立のための指導を継続して行い、生徒が主体的に学習する環境作りを行う。				
		基礎学力の確実な習得のための授業の工夫・改善に努める。	・主体的・対話的で深い学び(AL)やICTを活用した授業を全教科で実施し、思考力・判断力・表現力の育成に努める。				
		学校の活性化・特色化の推進に努める。	・新学習指導要領の実施に向けて、生徒の実態を考慮しながら進路希望に応じた教育課程、類型選択の継続的な検討を行う。				
	情報課	各部・各課、部活動と連携を取り、保護者・中学校への情報発信の充実を図る。	Microsoft Teams・一斉配信メールやClassiを活用して生徒・保護者への情報発信におけるペーパーレス化、連絡の伝達漏れの問題を解消し、本校の教育活動・進路情報への理解を深め、満足度を高める。				
学習用端末や各種システム、サービスの利活用、情報環境整備に伴う職員・生徒の利活用面での支援を充実させる。		主体的で協働的な学びや探究的な学びを軸とした授業改善を支援するため、研修課と連携しICT支援員を活用して職員研修の円滑な実施を支援する。					
図書課	読書の奨励と、図書館利用の促進を図る。	読書を奨励し、各教科と連携をしながら図書貸出冊数が前年度より100冊増加することを目指す。					
	図書委員会の育成、活性化を行う。	読み聞かせ活動を広げ、訪問朗読会など、本を介しての活動による地域貢献と図書委員の育成を目指す。					
	蔵書内容の充実を図り、管理に努める。	個人端末と併用を踏まえた図書資料利用のサポート体制を整え、調べ学習の円滑な実施を進める。					
生徒部	生徒課	十則の理念に基づき道徳的実践力を高める。	第一学年を生徒指導重点学年と位置づけ、学年と連携し「十則」の理念に基づき道徳性の涵養を図る。第二・第三学年に対して継続した指導を行う。				
		問題行動やいじめの未然防止に努めるとともに、適切且つ迅速な対応を図る。	携帯電話・スマートフォンの使用に関するマナーと併せて、SNS等におけるモラル向上の指導に努める。				
		アフターコロナを視野に入れた学校活性化を図る。	部活動加入率80%を目指す。マスク着用の場面とそうでない場面を考えさせ、生徒が生き生きと活動できる環境を整備する。健康・安全に留意した活動を推進することで自他を尊重する資質や態度を向上させる。				
	保健課	健康的な学校生活を実現するための指導を行う。	保健室の利用状況を担任及び学年に報告し、心身の状況を改善する具体的な方策を協議する。				
保健・整美委員会の自発的活動の促進を行う。		保健だよりの作成や清掃の呼びかけ等、役割を意識して自主的に活動できるように的確な指導を行う。健康・安全等に関する広報活動を充実させる。					
企画課	関係分掌と情報交換や意見交換を行い、相談と連携をしながら、儀式的行事立案の早期着手と、全体への早期提示を行う。	感染症対策の意識の向上を図るため、日常的な指導に加え、マスクの着用・アルコール消毒・換気・食食などを生徒自らが社会の状況と学校の方針等にに合わせて、効果的に実施できるようにする。					
	発行物の、内容改善・充実を図るとともに、制作を円滑化する。特に入学の手引の内容精選、ページ構成の工夫を行う。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する様々な制限等が徐々に緩和されてきており、従来のやり方に戻しつつも、コロナ禍で取り組んだ新しい手法も参考にして、より教育的効果の高い実施方法を模索する。					
進路部	進路課	進路目標の早期確立と進路意識の向上を目指す。(進路学習)	「総探」において、それぞれの学年で進路実現に直結した取り組みを行う。 (1学年:進路意識の向上と自己分析・2学年:自己実現能力の向上・3学年:進路実現)				
		生徒の進路希望実現に向けた取組の充実と指導力の強化を行う。(進路実現) 国公立大5、西南大5、福岡大5、九産大60、福工大5 正確かつ迅速に進路情報の提供を行う。(情報提供)	CS(チャレンジセミナー)において、目的・目標が定まった講座を設定し、生徒の受講意欲を高める。同時に、資格取得・他学年との学習を通じて、自信をつけさせ、受験へのモチベーションを高める。 入試結果や進路に関する情報を「進路の手引き」やHP等を活用し、生徒と保護者の進路選択を支援するとともに在校生や入学予定者に最新情報を提供する。				
	広報課	中学生体験入学の申込総数で、第1回、第2回合わせて850人以上を実現する。	玄界高校公式Instagramを通して中学校体験入学の広報活動を行う。また、できるだけ中学生が興味、関心を持つような内容をアップし、本校に興味を持ってもらう。				
		対外的な広報活動を充実させる。	部活動見学会、塾説明会、放課後学校説明会の広報活動をInstagramやHP、中学校訪問で積極的に行い、参加者の増加を図る。				
研修部	研修課	教科や教職の専門性を高めるための校外研修を積極的に働きかける。	広報委員会の活動を充実させ、動画版「玄旬」の作成を行う。広報委員長、副委員長を中心に玄界高校の旬を発信できるニュース番組のような動画を作成していく。				
		自立した教育活動を展開する素地を作り上げるために、若年者の研修や教育実習生を積極的に受け入れる。	ICT活用を中心とした公開授業期間を1学期、2学期にそれぞれ設定し、教科を越えた相互授業参観を行う。2学期の相互授業参観期間最終日に授業研修全体会を行い、授業参観で得られた成果や課題を全教科で検証、情報共有を行う。 授業技術や評価方法などの研修を通して、授業に関する理解を深め、教育活動の充実を図る。研修の受講者と指導教員、研修部の連携を深め、安全や衛生面に最大限留意した研修を実施する。				
	国際教育課	研修や研究成果、実施された行事の詳細を職員から広く収集し、研修紀要「創造」としてまとめたものを職員全体に還元する。	1年間の校内外研修の成果を記録し、職員全体に還元する。				
		国際文化コースの特色化を図り、その充実・発展を促すための行事を活性化させる。	国際文化コースの特色化のために、大学訪問での留学生との交流、英語科研修の実施や、学年交流の英語ディベート大会・スピーチ大会など、特色のある行事の充実を図る。				
学年部	1学年	基本的学習習慣の確立を目指す。	オーストラリア短期海外研修プログラムを実施する。事前研修として、現地とのオンライン交流、事後研修としてのプレゼンテーションなど、研修プログラムの充実を図る。				
		基本的学習習慣の確立を目指す。	福岡生徒等の交流会を年2回開催し、意識高揚の場、学校生活の不安解消の場、将来の進路への参考として活用させ、日常生活でも積極的に交流するきっかけ作りをする。				
	2学年	進路実現に繋がる生活習慣の確立を目指す。	十則の実践を図る。一年次では特に、「大きな声で挨拶をすること」「時間を厳守すること」「公共物を大切にすること」の3つに重点を置いてホームルームや集会など様々な教育活動において実践する。				
		進路実現に繋げる学習習慣の確立を目指す。	部活動への加入を促し、加入率80%を目指す。心と体を鍛錬することでメリハリのついた時間の使い方を身につけさせる。				
3学年	進路実現に繋がる生活習慣の確立を目指す。	個人面談や三者面談などを通して、情報共有に努め、未来予想図を実現するためには現在どう過ごすべきなのかの把握させる。					
	進路実現に繋げる学習習慣の確立を目指す。	十則にある「大きな声で挨拶をすること」、「時間を厳守すること」、「掃除は進んで行うこと」の3点に重点を置き、授業やHR、集会等で意識させ、実践させる。					
事務部	事務課	将来の職業選択までを見据えた、個々の能力、適性に応じた進路実現を目指す。	ひとり1台端末を活用し基礎学力を定着させるとともに、類型に応じた学力の充実を図る。				
		進路実現に繋がる生活習慣の確立を目指す。	社会化と個性化をすすめる場として、体育大会や修学旅行などの行事を活用していく。				
		進路実現に繋げる学習習慣の確立を目指す。	週末や長期休業中に生活のリズムを崩さないよう、保護者の協力を仰ぎながら、自己管理に努めさせる。				
事務部	事務課	予算の効率的な執行を行う。	放課後の時間に、落ち着いた学習に取り組める場所を提供・確保する。				
		安全管理の徹底と環境整備を行う。	面談の充実を図り、入試形態に合わせて組織的に指導を行う。				
		わかりやすい文書の作成を行う。	限られた予算内で、効果や成果を出せるよう効率的な予算執行を行う。				
				校内巡視をこまめに行い、修繕を要する箇所は速やかに予算の獲得に努める。			
				就学支援金等保護者への説明を丁寧に、質問等にも真摯に対応する。			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見

--	--